

第3章 まちの移り変わり

【国道228号線と木古内バイパス】



海岸沿いを通る国道228号線



木古内バイパス（海側の道路）

国道228号線は古くから函館と松前を結ぶ大切な道路です。その国道は役場の前を通っていましたが、自動車の数が増え、トラックなどの大型自動車なども多くなり、まちの中を車が通りにくくなりました。

そのため、1989（平成元）年に海岸沿いを通る「木古内バイパス」がつくられ、その道路が新たな国道228号線となりました。



バイパスとは、建物やまちの人が多い場所を通らなくてもすむようにつくられた、別の道のことです。海沿いを走るので景色がとてもきれいで、ぼくはこの道も好きです。



はい、バイパスができたことで、まちの人たちの暮らしには、どんな良いことがあったのでしょうか。木古内のまちの安全や、車の通り方に注目しながら考えてみましょう。

第3章 まちの移り変わり

【新たな交通手段の整備】



函館・江差自動車道



国道228号線から自動車道への入口

2022（令和4）年には、函館・江差自動車道（高規格道路）が木古内町まで開通し、木古内町から函館市への自動車での移動時間が短くなりました。

函館・江差自動車道
二次元コードはスキャン



例えば、函館・江差自動車道を使うと、函館空港への移動時間は、一般道（国道228号線）を使うよりずっと短くなりました。海沿いの一般道が災害で使えないときにも、函館・江差自動車道を役立てることができ、安心です。



木古内町の交通は、鉄道、バイパス、新幹線、自動車道といった交通手段が、時代ごとに整備されてきました。現在では、それぞれが目的に応じて使われ、まちの暮らしや移動を支えています。



鉄道が減った代わりに、道路や新幹線でつながるようにもなりました。交通手段が変わると、人々の生活はどのように変わっていったのかな。調べてみたくなりました。

第3章 まちの移り変わり

【木古内町の公共施設の移り変わり】



中央公民館



ファミリースポーツセンター

まちの公共施設の移り変わりについて調べましょう。

中央公民館は1978（昭和53）年に建て替えられて、まちの文化活動やイベントなどに使われています。中央公民館の中には、まちの人が本を読んだり勉強したりできる図書室があります。中央公民館のとなりには冬でもスポーツができるファミリースポーツセンターがあります。

木古内川をうめ立てた場所には、木古内町国民健康保険病院の他にも、特別養護老人ホームいさりびなどが建てられました。

学校については、まちの人口が減るにつれて、小学校に通う児童数が減っています。1889（明治22）年に鶴岡小学校ができて以来、5つの小学校があったのですが、統合のため、2003（平成15）年に2校に、2011（平成23）年に、木古内小学校1校だけとなりました。（96ページ付録4 参照）



まちの主な公共施設は、どのように変わってきたのでしょうか。

学びのポイント

主な公共施設は、いつでもどこでも調べたか調べて年表にまとめてみよう。

主な公共施設がどのように増えてきたか考えてみよう。

第3章 まちの移り変わり

【^{こうきょうしせつ}公共施設 - ^{まちやくば}町役場の^{うつ}移り^か変わり】

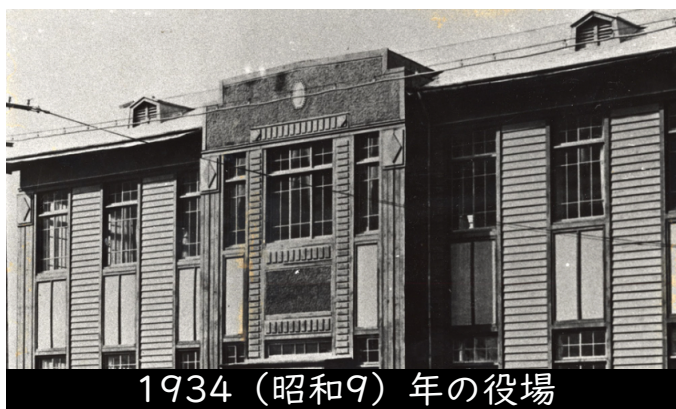


1918（大正7）年木古内村最初の役場



1925（大正14）年ごろの役場

木古内の最初の役場は、1879（明治12）年に、札苅地区に置かれました。1888（明治21）年、役場は木古内地区に移ります。役場の建物は何度か火災にあい、建て直されました。



1934（昭和9）年の役場



1979（昭和54）年 自治制百周年



今の町役場は、1982（昭和57）年に建てられた建物です。産業会館とも呼ばれ、今もまちの中心にあります。



完成当時の木古内町役場（1982年）



町役場の様子（1階）